

府立中津支援学校 令和4年度「学校運営協議会」議事録（第2回）

日時	令和4年11月25日（金）10:00～12:00			
出席者	協議会委員	所属等	学校事務局	校務分掌等
	川田 和子	大和大学教育学部 准教授	奥井 光司	校長
	田中 博之	大阪整肢学院 院長	人見 光彦	教頭
	花咲 典之	中津連合振興町会 会長	水迫 英紀	事務長
	中塚磨由美	新梅田シティライオンズクラブ	入福濱 光	首席兼小学部主事
	園田 葉子	大阪音楽大学 教授	宇賀 功二	首席兼中学部主事
	梅谷 通代	中津保育園 園長	三木 智裕	高等部主事
			小林はるか	健康安全指導部 防災担当
傍聴人				
おもな テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校経営計画進捗状況について ・ SDGs の取組みについて ・ 学校内外の取組みについて ・ 防災連携会議（図上訓練）および共同避難訓練について 			
協議内容の 概略 及び 提言内容・ 改善方策	<p>(1) 修学旅行報告 10月に実施した各部の修学旅行について、スライドを見ながら報告を行った。</p> <p>(2) 授業見学 学校運営協議会の翌日が本校の学習発表会「中津まつり」ということもあり、中学部 FG グループの舞台発表と、高等部の珈琲販売を見ていただいた。また、小学部については、AB 低グループの授業見学（ふれる・えがく）を行った。 <学校長より> 今年度の「中津まつり」については、演劇だけではなく、授業の中で学んできた様々な内容を生かせる発表となるように各学部で検討し、取り組んできた。中 FG グループは音楽と体育での取組みを、中 DE は授業で取り組んできた活動やゲーム等を来ていただいた方々に体験してもらうようなブースを設けている。高等部は職業や総合での取組み、小学部は日頃の授業とマッチさせながら劇を行う。中 FG グループでの GIGA 構想による一人一台端末の iPad を活用した取組み等、先生方の工夫を見ていただけた。</p> <p>(3) 令和4年度 学校経営計画の進捗状況 学校長より、令和4年度の学校経営計画の進捗状況の説明を行った。</p> <p>(4) 学校教育自己診断に関するアンケート アンケートの実施方法を、次の3点について今年度より変更することの説明をした。①回答方法として、紙面でのアンケートだけではなく、インターネットによる回答も受け付ける。②大阪整肢学院と回答者の検討を行い、対象者を全職員ではなく、児童生徒との関わりとともに、学校における取組みについて特に関わりのある26名</p>			

に限定する。③実施時期として、「中津まつり」後の1週間で行う。

(5) SDGs の取組み

前回の学校運営協議会で連絡したユニクロ社の“届けよう服の力プロジェクト”に参加した取組みについて動画を見ながら報告した。大阪整肢学院様や中津保育園様、中津連合振興町会様のご協力により、段ボール10箱分の衣服が集まった。現在は、それらの仕分け作業を行っている。

(6) 学校内外の取組み

①ボランティア講座、②支援機器活用・支援教育実践研修会、③関西教育ICT展の3点についての実施報告を、スライドを確認しながら行った。

ICTを活用するうえで、子どもたちが使いやすいように、どのようにセッティングするか、それぞれに応じた使い方やカスタマイズ等、個に応じたフィッティングの重要性が、これから重要なポイントとなってくる。

<学校長より>

フィッティングを通じて、教員と児童生徒が一生懸命取組み、児童生徒ができた体験できることが大事で、これが次の学習への意欲へと繋がっていき、児童生徒の成長につながる。また、世の中ともつながっていく素材となると考えており、その視点をもって本校のICT教育を進めていく。

(7) 防災連携会議（図上訓練）及び共同避難訓練について

大規模災害が発生したときに、大阪整肢学院が中津学園と中津保育園を避難場所として受け入れることになっている。それを背景として、大阪整肢学院様、中津学園様、中津保育園様、本校の4施設で、図上訓練及び共同避難訓練を行った。協議内容としては、①職員・利用者人数の確認、②各施設の地震発生時の対応、③避難経路確認、④院内経路／避難場所の確認、⑤大阪整肢学院への避難及び連絡基準／連絡方法、⑥緊急持ち出し品と搬出方法、の6項目について、それぞれグループワークにて意見交換をしたのち、その後全体で出された意見を共有した。

また、図上訓練を踏まえて、実際に合同での地震避難訓練も行った。

単一施設では分かりえない新たな問題や検討事項について確認することができてよかったと、各施設からの感想を聞いている。今回分かった課題や検討事項について一つずつ向き合っていく、もしもの時につなげていきたい。

<運営協議会委員より>

地震が起こったら普通は机の下に隠れる。ただ、大阪整肢学院に入所している子どもたちは、それができない。介助者の心情的には、子どもの上に覆いかぶさるようなことをしてしまいがちだが、先日受けた研修によると、それは良くないとのこと。元気な人が机の下に隠れて、隠れられない人はそのまま。幸い助かったら、元気な人が出てきて一緒に避難することになるのか。それは心情的にできないのでは…。震度6くらいの強い揺れだと、車いすやベッドに乗っていてもひっくり返ってしまう。起こらない事を祈るしかないのか。

(8) 実践事例等教材・教具集紹介

教頭より、お配りしている今年度発行した実践事例用教材・教具集の冊子の紹介を行った。

(9) 保護者からの意見書等について

特に意見書等は届いていない。(校長 D メールにて確認済)

(10) その他

- ・ 保育園は、コロナ禍で、地域とのつながりを築けず、思い悩んでいた。3年目にして、合同避難や、SDGs の取組みという交流の機会をいただき、少しずつ地域の方々と顔を合わせたり、触れ合ったりでき、実のある交流ができるようになってきた。先日、SDGs の取組みとして本校の車いすに乗っている高等部の生徒が来園し、園児たちと交流したときのこと、園児たちは、障がいのある人と接することに驚くことなく、自然と受け入れていた。その数日後、高等部の生徒が外に出ていたときに、職員より先に一早く園児たちが気づき、「あ、保育園に来てくれたおにいちゃん、おねえちゃんや」と駆け寄ったと聞いた。子どもたちが地域の方々に見守られることで、様々な感情を引き出してもらうきっかけになり、実りの多い交流の機会をいただき、大変感謝している。
- ・ 子どもたちの発表の場や、一人1研究といった形として残されていることに感銘を受けた。ICT 機器の取り扱いについて、今後、フィッティングに力を入れていくということに期待している。実際の先生方の工夫が面白く素敵。子どもたちが生き生きとして取り組んでいた。
- ・ SDGs の取組みやハーバリウムボールペン販売で、相談事を地域にさせていただけたことに感謝している。これからも協力していきたいので、お声かけください。
- ・ 中津まつりの練習で、子どもたちが頑張っている姿を見せていただけ、ありがたかった。毎回来るたびに活動が活発になっていて、子どもたちは幸せだと感じた。また、それを支える先生方や周りの方の努力も大変だと痛感した。
- ・ 運営協議会委員の方々の応援が教育実践に折り込まれていることが素晴らしい。また、中津まつりが、今年度より劇だけでなく、普段の学習の中で身に付けたことを子どもが主体的に出せるような取組みをされている。そして、それを出せるように先生方が工夫されていることに感銘を受けた。